

インスペック株式会社

第2四半期決算説明会

2022年12月13日

インスペック株式会社



JQA-QMA16212



MS
CM009



(証券コード : 6656)

The logo for 'inspec' is displayed in blue, lowercase letters. The 'i' is stylized with a vertical bar to its left. The logo is mounted on a white building facade. Below the logo, there are several windows with black frames.

inspec

会社概要	2
インスペックの歴史	3
2023年4月期 第2四半期総括	4
2023年4月期 第2四半期業績ハイライト	5
四半期業績推移（売上高：過去3期比較）	6
受注高推移	7
製品別売上高	8
要約貸借対照表	9
要約キャッシュ・フロー計算書	10
研究開発費	11
財務ハイライト	12
インスペックの事業戦略	13

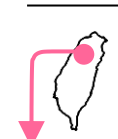
会社概要 (2022年10月31日現在)



商 号	インスペック株式会社
本 社	秋田県仙北市角館町雲然荒屋敷79-1
創 業	1984年（昭和59年）1月
上 場 市 場	東京証券取引所スタンダード市場
代 表 者	代表取締役社長 菅原 雅史
主 な 事 業	電子回路基板（半導体パッケージ基板・FPC等） の外観検査装置及び製造装置の開発・製造・販 売・サービス
従 業 員	77名
資 本 金	801百万円
発行済株式数	3,981,500株（単元株数：100株）
株 主 数	5,024名

インスペック本社

秋田県仙北市角館町



非連結子会社
Inspec TAIWAN
台湾桃園県

中国・タイ・ベトナムに
サポート体制有り

東京オフィス
東京都港区浜松町

長野サポートセンター
長野県長野市



春



夏



秋



冬

角館の四季

インスペックの歴史

20th Century

21st Century



昭和59年
太洋製作所創業

昭和63年
(有)太洋製作所設立

平成3年
新社屋建設

1984

カセットテープ
レコーダー向け
磁気ヘッド
組み立て

1988

ハンディカムの
磁気ヘッド
組み立て

1991

FAシステムの
設計製造受託開始



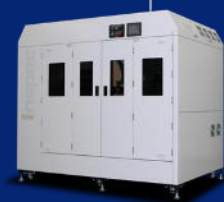
1997

検査装置第1号
リードフレーム検査装置
MV7000発表



2000

第2世代
リードフレーム検査装置
LF2000発表
ロングセラー製品



平成13年1月1日
インスペック株式会社
に社名変更

2001

BGA検査装置
BF8000発表
ロングセラー製品

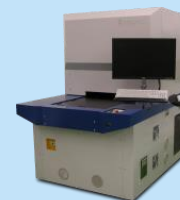


2002

2003

2006

ハイエンドPKG基板AOI
SX5000発表
CPU向けPKGに対応



COF検査装置
TR3000発表
シェアトップとなる



平成18年
東京証券取引所
マザーズ市場へ上場
本社工場増築

平成29年
東京証券取引所
市場第二部へ市場変更

2016

2017

2018

ハイエンドPKG基板AOI
全自動化ライン対応



FPC向け
ロールtoロールAOI
RA7000発表



令和4年
東京証券取引所
スタンダード市場へ変更

2019

2022

新製品発表
ロールtoロール
両面同時DI
RD3000FB発表



ロールtoロールDI
RD3000発表



期初受注残を順調にこなすものの、一部案件の期ズレにより当初計画未達

■主なトピック：

- 中国市場販売向けに、香港のWorld Wide社と代理店契約締結（2022年8月）
- 両面同時に露光可能な新製品
「ロールtoロール型シームレスレーザー直描露光装置（RD3000FB）」
の開発完了（2022年11月）
- 前期大型受注案件については、現在当社工場内にて組立作業中。
当初計画どおり、下半期以降に順次納入・検収予定

- 計画していた一部案件が下半期にズレ込んだため、売上は未達
- 2022年1月及び4月の大型受注案件については、下半期以降に検収予定

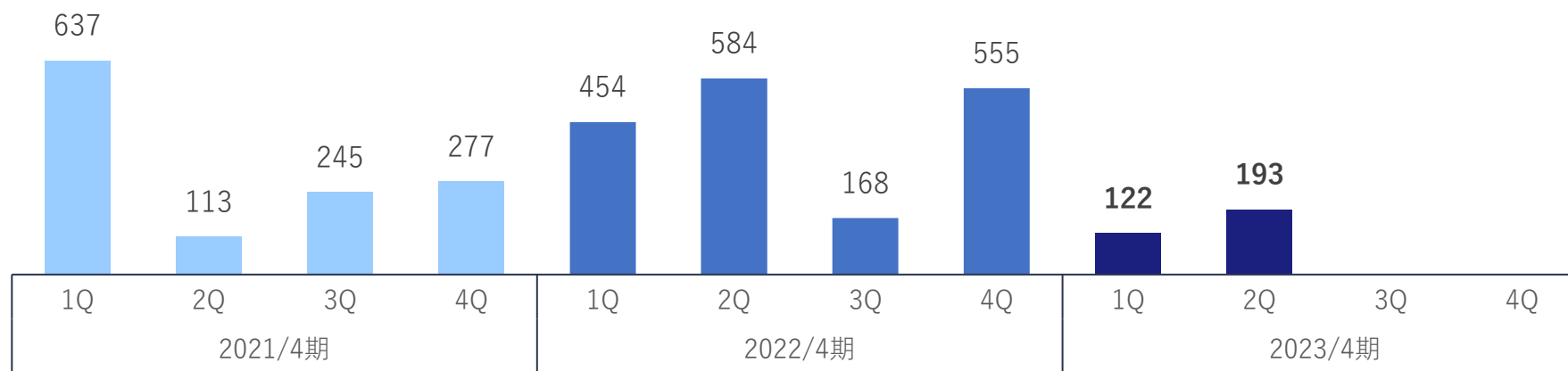
■ 損益計算書サマリー

(単位：百万円)

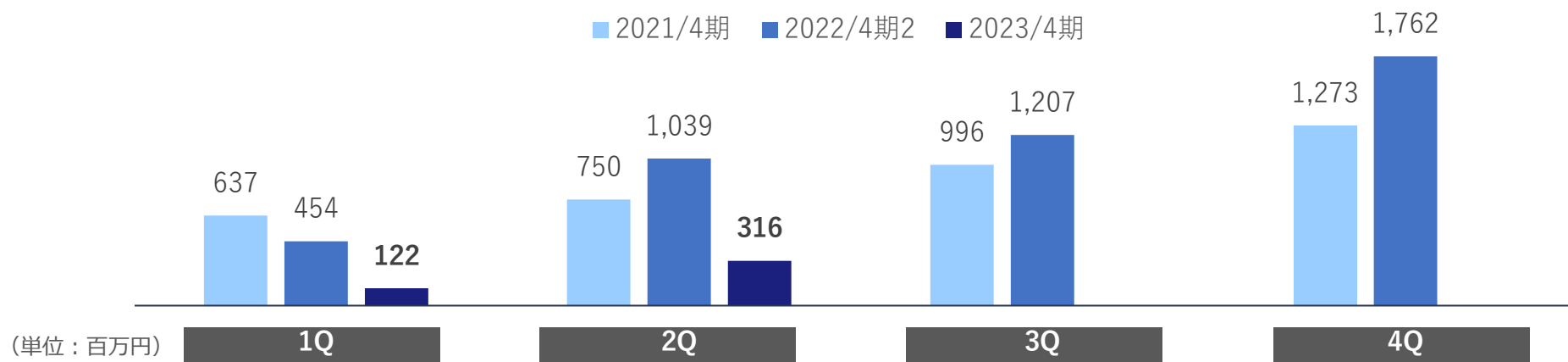
	2023年4月期 第2四半期	2022年4月期 第2四半期	前期比	増減率	2023年4月期 通期計画
売上高	316	1,039	△723	△69.5%	2,250
営業利益	△248	26	△274	—	100
経常利益	△259	18	△277	—	90
当期純利益	△258	11	△269	—	70

四半期業績推移（売上高：過去3期比較）

四半期毎の売上高推移

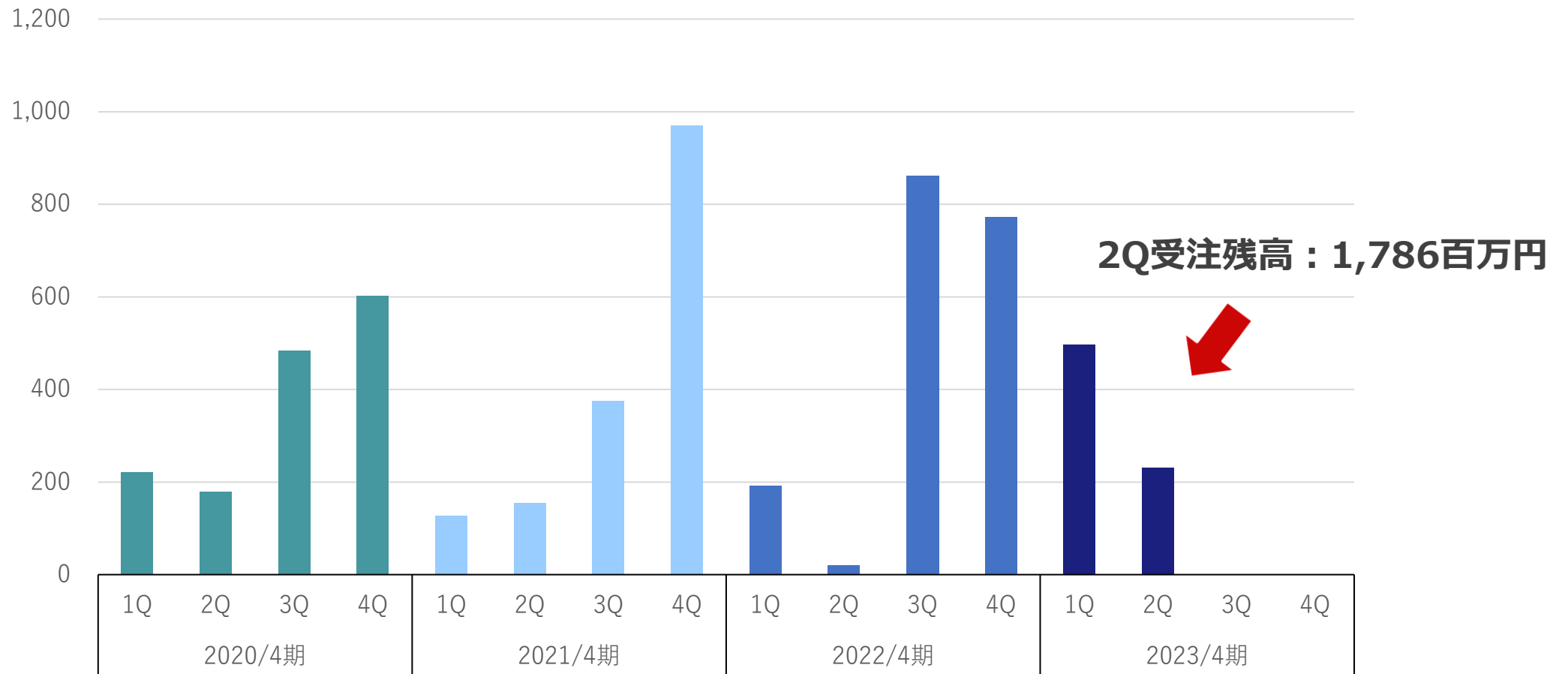


売上高比較

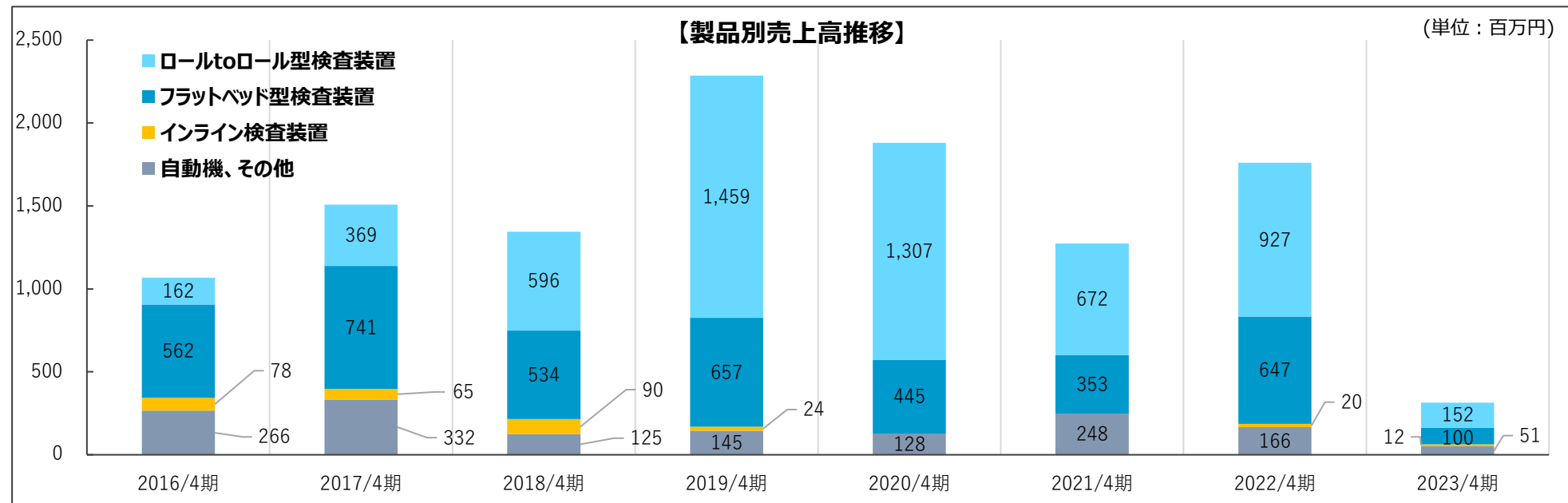


四半期毎の受注高推移

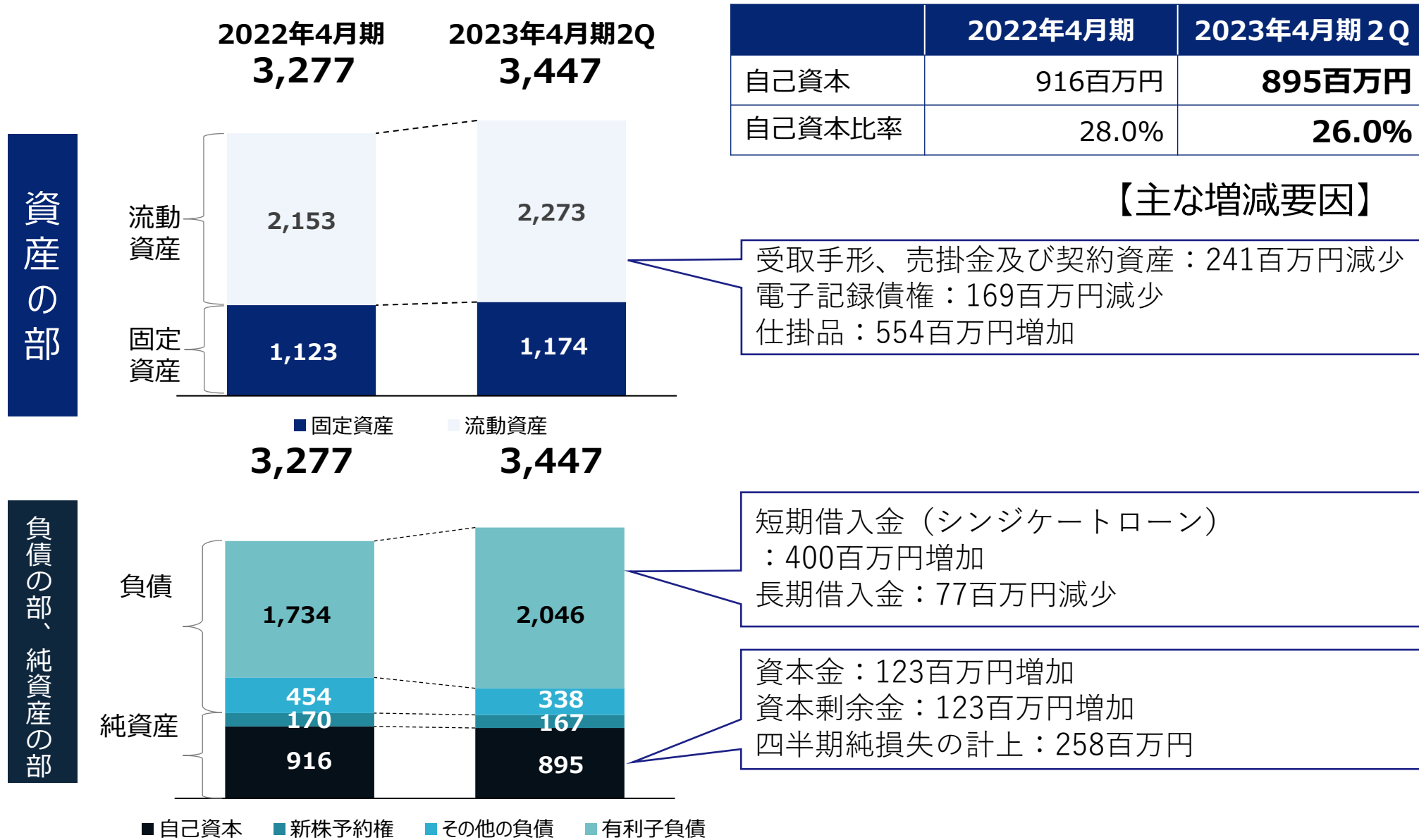
(単位：百万円)



	2023年4月期2Q		2022年4月期2Q		前年同期比 増減率
	金額（百万円）	構成比	金額（百万円）	構成比	
■ 売上高合計	316	100.0%	1,039	100.0%	△69.5%
■ ロール to ロール型検査装置	152	48.2%	629	60.5%	△75.8%
■ フラットベッド型検査装置	100	31.8%	318	30.6%	△68.6%
■ インライン検査装置	12	3.9%	—	—	—
■ 自動機・その他	51	16.1%	91	8.8%	△44.0%



要約貸借対照表

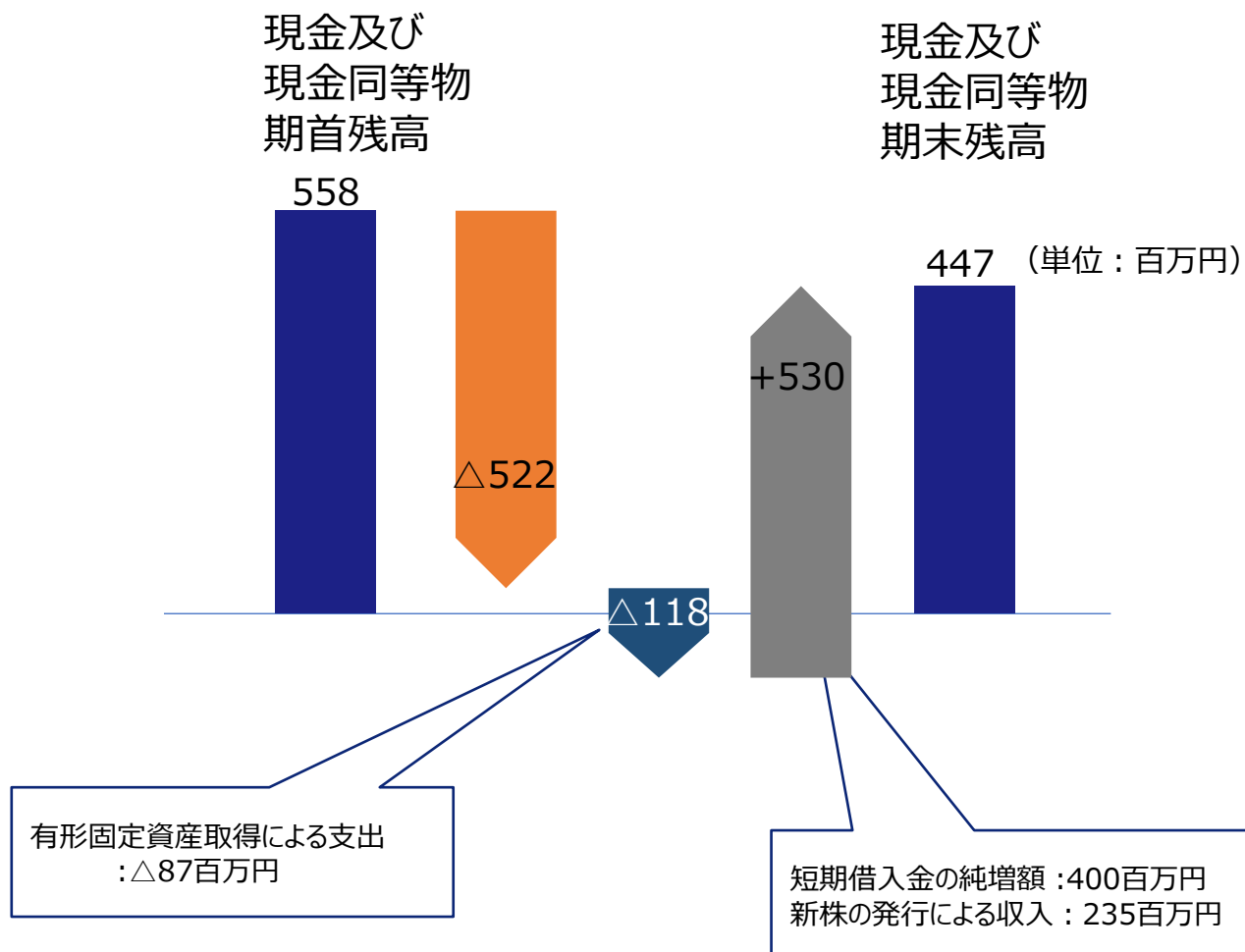


	2022年4月期	2023年4月期 2Q
自己資本	916百万円	895百万円
自己資本比率	28.0%	26.0%

(単位：百万円)

(単位：百万円)

現金及び現金同等物 111百万円の減少



	2022年4月期 2Q	2023年4月期 2Q
期首現金及び現金同等物残高	673	558
営業活動によるキャッシュ・フロー	△125	△ 522
投資活動によるキャッシュ・フロー	△132	△ 118
フリーキャッシュ・フロー	△257	△ 641
財務活動によるキャッシュ・フロー	195	530
現金及び現金同等に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額（減少△）	△62	△ 111
期末現金及び現金同等物残高	610	447

	2023年4月期2Q		2022年4月期2Q		対前年 増減率
	金額（百万円）	対売上比	金額（百万円）	対売上比	
半導体パッケージ基板・ 精密基板検査装置関連事業、 ロールtoロール型シームレス直描露光装置事業	146	46.3%	112	10.8%	+30.4%

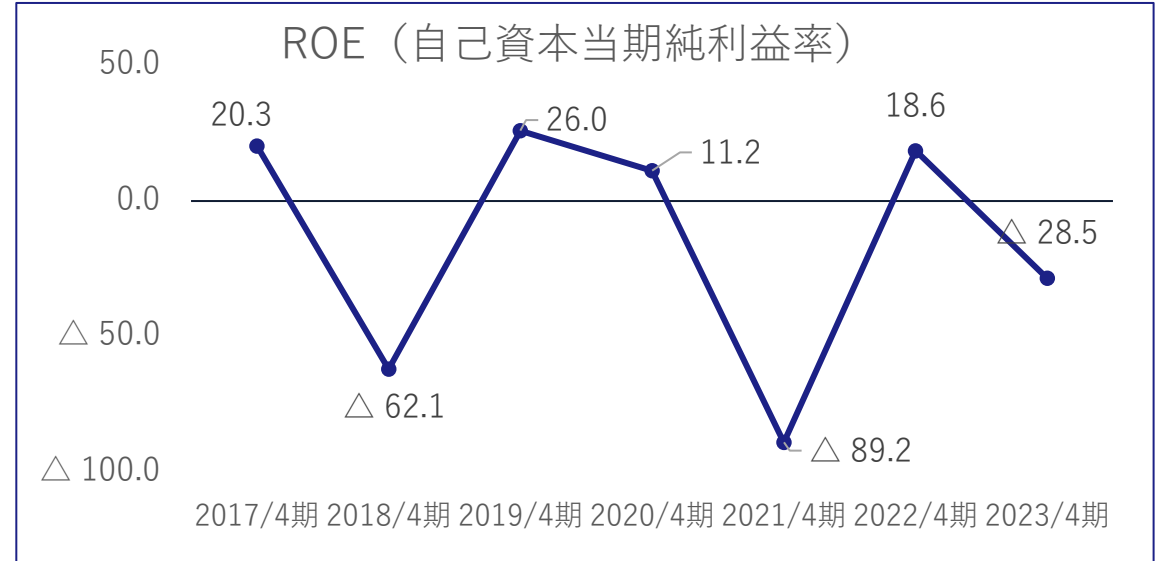
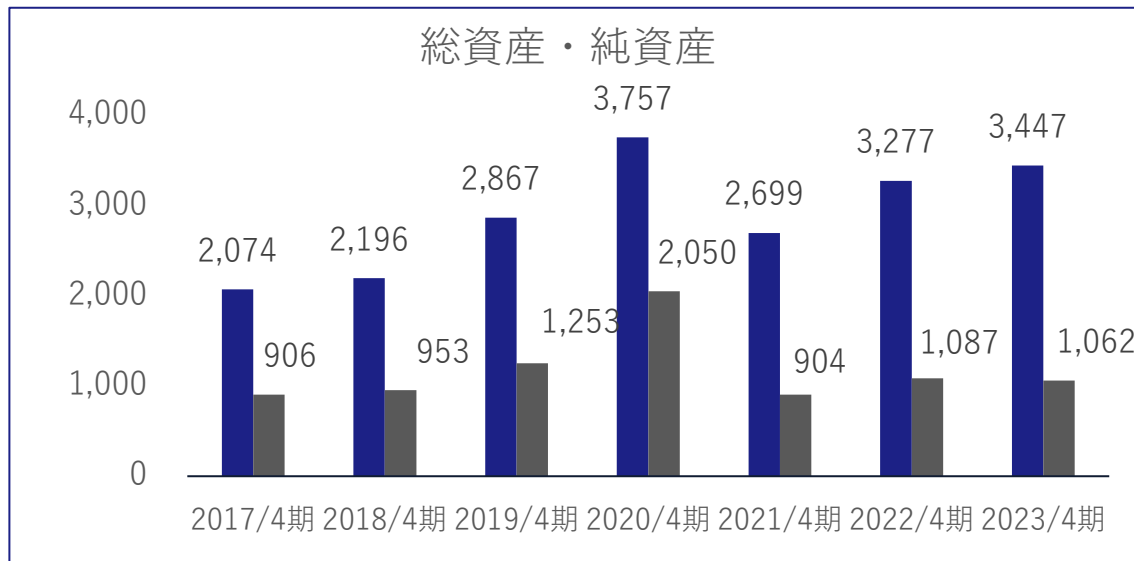
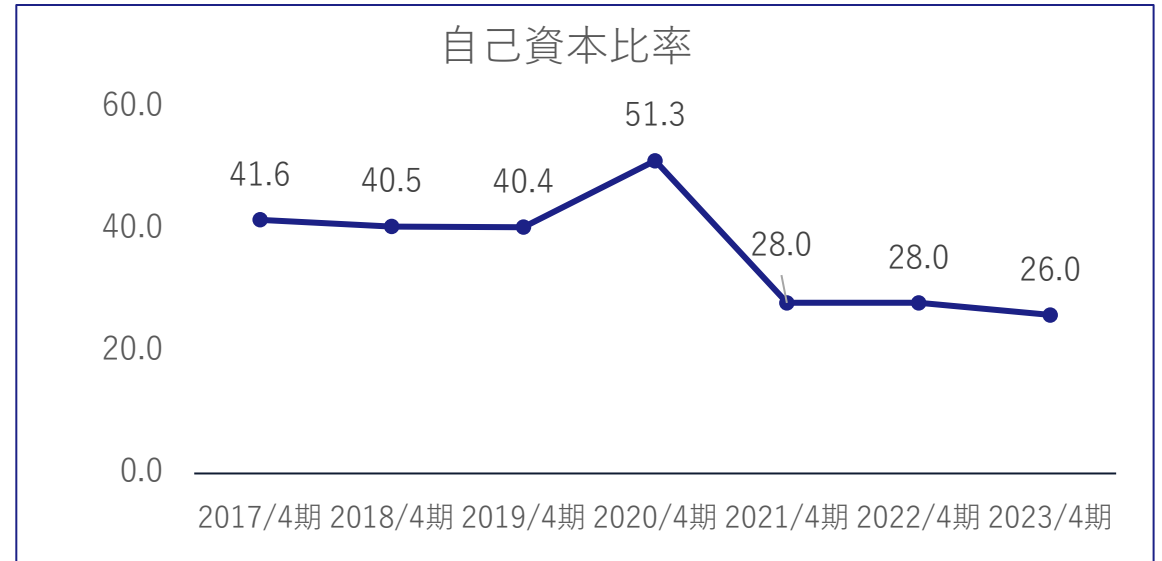
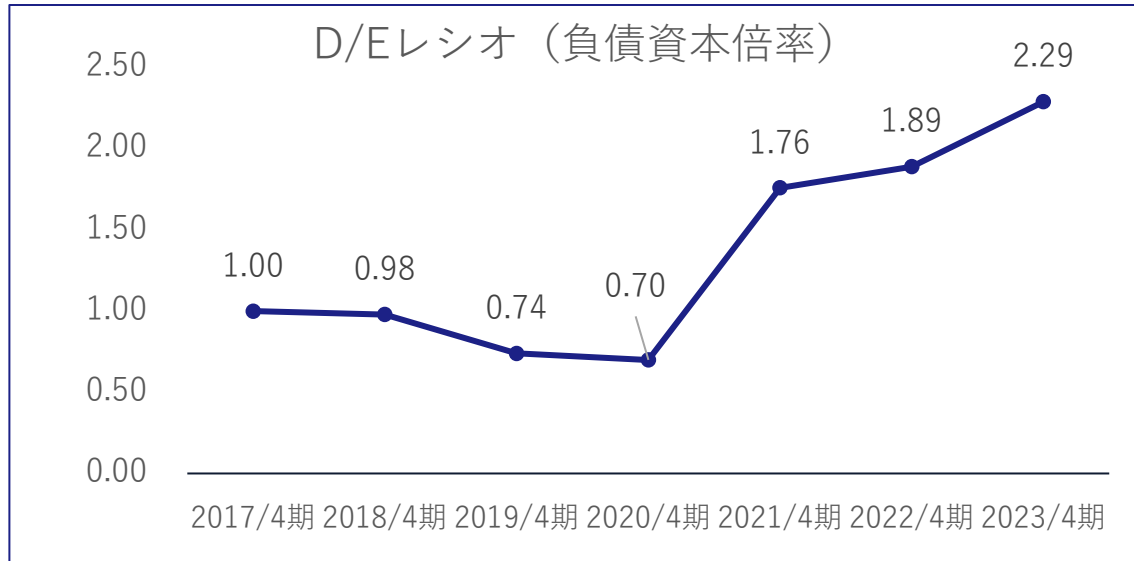
◆半導体パッケージ基板・精密基板検査装置関連事業

- ・ロール to ロール向け画像処理システム、高速インライン検査システム等の開発
- ・AIを活用した欠陥分類システムの開発

◆直描露光装置事業

- ・ロール to ロール型シームレスレーザー直描露光装置の開発（次世代機）

財務ハイライト



インスペックの事業戦略

1. エレクトロニクスマーケット

事業分野

- 半導体分野
- モバイルデバイス分野

対応製品

- 高性能検査装置
- SX・BP・BF各シリーズ
- RA・RV各シリーズ



主要マーケット

- 日本国内
- アジア地域

キーワード

- **5G → 6G**
- **AI**
- **DX**
- **VR・AR・MR**
- **CLOUD**

2. モビリティマーケット

事業分野

- 車載エレクトロニクス
- 航空機のエレクトロニクス

対応製品

- RtoR型検査装置
- RA7400シリーズ
- RtoR型直描露光装置
- RD3000シリーズ

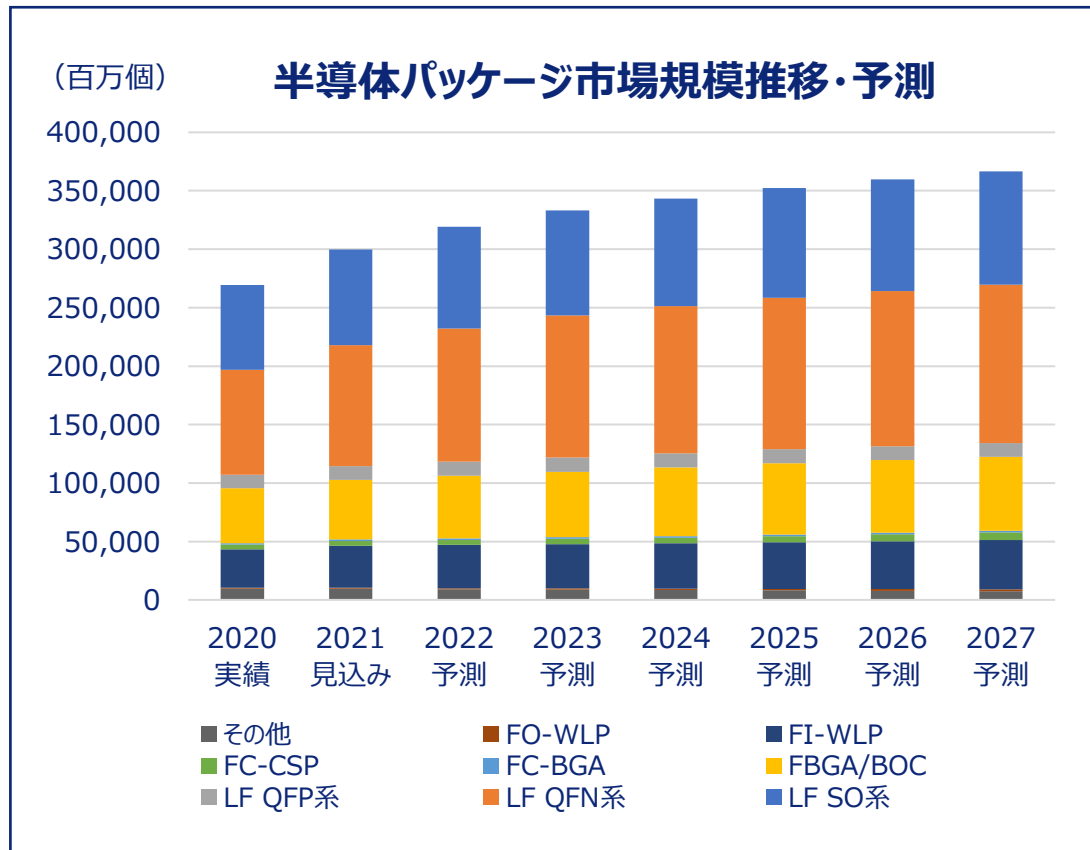
主要マーケット

- 欧州
- 北米
- 日本国内
- アジア地域



キーワード

- **CASE**
- **カーボンニュートラル**
- **車両軽量化**



2021年 富士キメラ総研

■ 全体市場

- 2021年には、巣ごもり需要やリモート需要でPCを中心とした情報通信機器向けが非常に好調であったことに加え、2020年に市場が落ち込んだ自動車、スマートフォン関連市場が回復したことで、前年比11.3%増と見込まれる。金額ベースでは更に高い成長率となる。
- 2021年は、28nmや40nmプロセスを採用したドライバーICやマイコンなどで、供給不足の状態が続いている。ファウンダリーが立ち上がりこれらの生産が進むことで、2022年は前年比6%増と予測した。その後も3%前後の成長が続くと見られる。

2021年 富士キメラ総研



SX5600

半導体パッケージ基板向けAOI『SX5600』

- インスペック基板AOIのフラッグシップモデル
- 最先端の超高精細基板に対応
- クラス最速レベルの生産性を実現

半導体パッケージ基板向けAVI『BP7200』

- JEDECトレイをまるごと検査
- クラス最高レベルの超高速検査を実現
- CPU向けパッケージ基板で多くの実績
- 全自動検査 + 全自動良品/不良品振り分け



BP7200

急成長するEVマーケット

主力製品の検査装置

ライバルを圧倒する高速・高精度検査
車載向けロールtoロールAOI

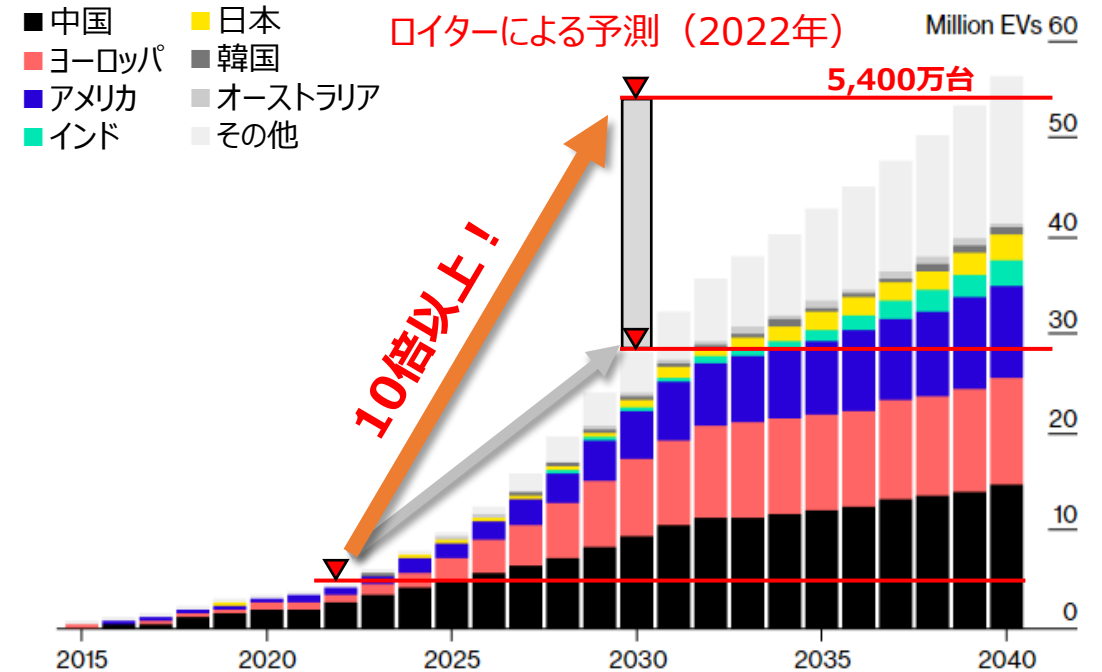
『RA7400』



オンリーワン製品

車載用長尺FPCをシームレスに露光可能
ロールtoロール型シームレス直描露光装置

『RD3000シリーズ』



EV市場予測（2019年 Bloomberg）

拡大する車載FPC市場



バッテリー・マネジメント・システム



スイッチ類



LEDヘッドライト

RtoR型両面同時シームレス直描露光装置『RD3000FB』

inspec

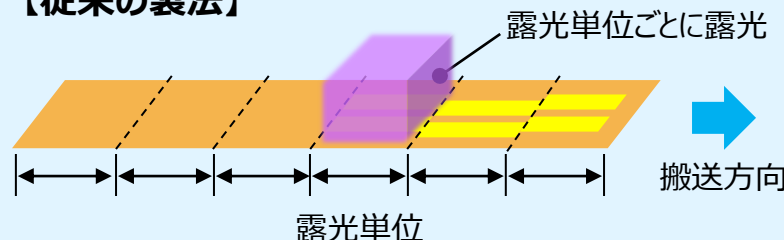
世界初!!

長尺FPC (※) のシームレス
両面同時露光 を実現



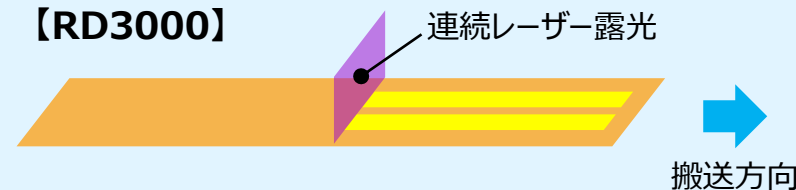
※FPC : フレキシブルプリント基板

【従来の製法】



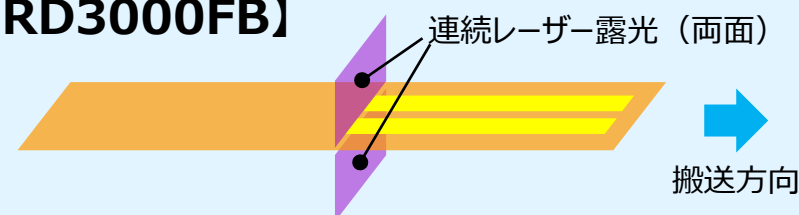
エレクトロニクス向け露光機では最大でも60cm×60cm単位でしか露光できず、継ぎ目の部分に**品質上のリスク**がある。表裏で**位置ずれのリスク**もある。

【RD3000】



最長6mのシームレス連続露光が可能。**継ぎ目が存在しない。**
両面FPCでは表裏で**位置ずれのリスク**がある。

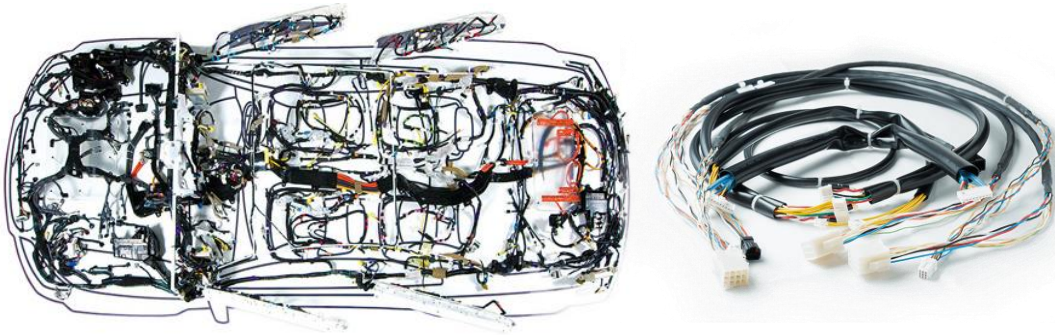
【RD3000FB】



両面同時露光により、**生産性が2倍。**
位置ずれが発生しない。

EVで多用される長尺FPC

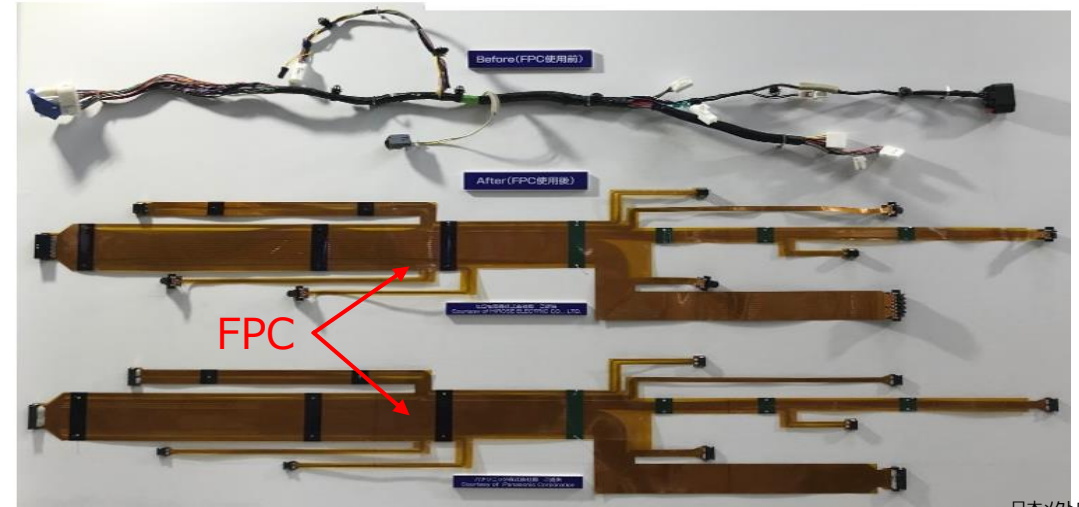
ワイヤーハーネス



<https://www.yazaki-group.com/wireharness/>

<https://harness.love/>

Before



日本メクトロン

After

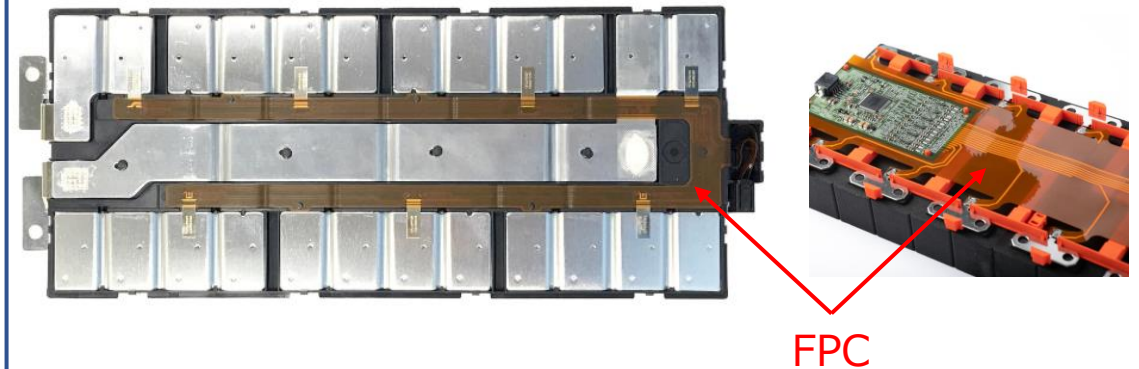
バッテリーマネジメントシステム



画像: <https://cehub.jp>



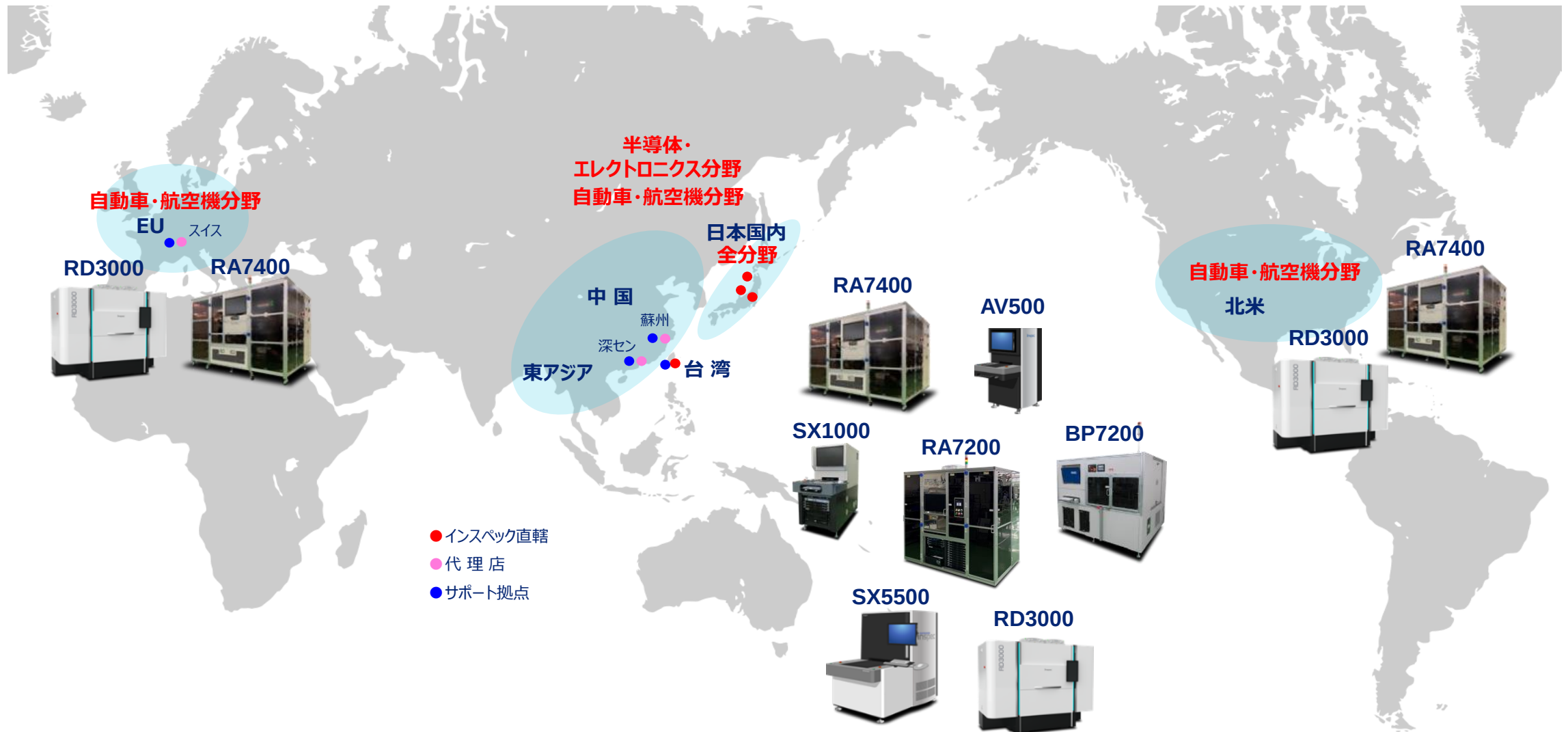
EVのバッテリーシステム



<https://www.yazaki-group.com/rd-tech/product/418>

<https://www.yazaki-group.com/rd-tech/product/418>

事業エリアの拡大



私たちインスペックは自分たちの存在意義を見つめ直し、 社会の繁栄と発展に貢献してまいります。



- 車載FPC検査装置、露光装置の販売拡大による車両軽量化及びサプライチェーン問題解消への貢献
- 製品含有化学物質規制への対応及び製品のバージョンアップによる廃棄物の削減
- DXの加速による業務効率改善、収益アップ
- 人事評価制度、報酬制度の改定
- 地域災害ボランティアへの登録

挑戦こそが未来への唯一の扉

インスペックは自社が持つ技術・ノウハウを駆使して
まだ見ぬ明日へチャレンジし続けます。





Appendix

- 用語集
- 本資料取り扱いのご注意

AOI (Automated Optical Inspection)	自動光学検査装置、パターン検査装置。
AVI (Automated Final Visual Inspection)	自動最終外観検査装置。
FPC (Flexible Printed Circuits)	フレキシブルプリント回路基板、フレキシブルプリント配線板と呼ばれ、絶縁性を持った薄く柔軟なベースフィルムと、銅箔等の導電性金属を貼り合わせた基材に電気回路を形成した基板。
LDI,DI (レーザー直描露光装置)	プリント基板制作において基板上に塗布された感光材にレーザー光で直接描画する露光装置。
SDGs	Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)。国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた17項目の目標。
半導体パッケージ基板	ICチップと外部を接続し、電源供給と電気信号の入出力を可能にする。またICチップに形成される非常に微細な回路を、衝撃やほこり、湿気など、外部環境から保護する役割を果たす。
ロールtoロール	電子デバイスを効率よく量産する手法の一つ。ロール状に巻いた長さ数十～数百メートル、巾数十センチメートル程度のフィルム状の材料に基板の回路パターンを印刷し、封止膜などと張り合わせてから再びロールに巻き取る。従来方式では個別に切り離された基板を使うため、ある工程から次の工程に個々の基板を搬送する手間が掛かる。

本資料のお取り扱い上のご注意

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料を作成するに当たっては、正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及又は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください。